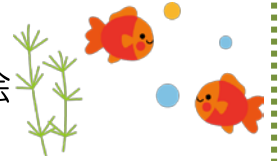




ち★ネット!

「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会
それが、地域医療ネットワークの会です!



平成21年7月14日 第7回 地域医療ネットワークの会

「腹膜透析患者の症例検討」

10施設 54名の参加がありました

大学病院医師、地域開業医、居宅支援専門員、大学病院看護師、訪問看護師、福祉用具専門相談員など、今回の症例に係わっていただいた方を中心に、地域で在宅療養を支えてくださる方々にご参加いただき、症例検討をしました。



<内容>

在宅療養を希望して、腹膜透析を選択した患者が急変し、病院でお看取りした症例を、病院・地域医療それぞれの立場から支援状況を説明して頂き、参加者全員で検討しました。

●大学病院医師の立場から

聖マリアンナ医科大学病院 櫻田 勉 医師

「高齢腎不全患者に対するPDラストという選択」

在宅医療を目指したものの加療中に肺炎を契機に死亡した症例報告

●大学病院退院調整看護師の立場から

聖マリアンナ医科大学病院 永田ノリ子看護師

自宅退院に向けてコーディネートした経過報告

●ケアマネジャーの立場から

二子薬局 はなえケアステーション

病院から在宅へ「おうちに帰りたい」というご本人様の望む暮らしの希望を支援するために、専門職との連携を図る上での顔の見える関係と信頼関係の大切さについて

荻原 美代子ケアマネジャー



—参加者全体でのディスカッションでは—

病棟看護師からは、ケアマネジャーがいろいろ調整してくれていたことがよくわかり、畳の上で過ごさせてあげたかったという意見が聞かれました。医師の葛藤・ジレンマがよく伝わり、治療選択の難しさを感じた反面、在宅では幅広く受け入れ可能であり退院前カンファレンスを行うことで歩みよれることも多いことが共通認識できました。

